

水 と 緑



前橋商工会議所青年部 緑水会

Maebashi Young Entrepreneurs Group Report

49

Shift Generation

新旧代表幹事対談



ryokusui

Hiroaki Tajima

田島宏明 20年度代表幹事

Shigenori Ishii

石井繁紀 18・19年度代表幹事

Shift Generation

新旧代表幹事対談

司会進行:20年度広報委員長 林 豊

そのまま引き継ぐのではなく
コンセプトを引き継ぐことが
伝統を守ること

昨年度行われた30周年記念事業を振り返って頂き、また30年の良き伝統を継承しつつも、

新たな新生緑水会構想に関して、昨年度、そして今年度代表幹事のお二人に語っていただきました。

司会 本日は、広報誌「水と緑」発刊に伴う巻頭特集、「新旧代表幹事対談企画」にご賛同頂きありがとうございます。

早速ですが、まず始めに、30周年記念式典を盛大に開催しましたが、様々な苦労があったと思われます。

石井代表幹事、いかがでしょうか？

石井 本当に大変でしたね。6月に記念式典を行いました、ぎりぎりまで内容が決まらなくて・・・右往左往しているような失敗しながらも、なんとか皆の力で式典まで辿り着いたわけで。

司会 記念式典はさすがに緑水会らしい格もあり、華やかでオリジナリテイもありましたね。

石井 そうですね。それに皆が本当に苦労した成果として、今も続いている《どん汁うどん》や《ふれあいフェスタin前橋》が生まれたわけです。一方、田島さんが担当した記念誌は着々と出来上がっていったんですね。

田島 あれも大変でした・・・が、楽しかったです。(笑)

司会 かなり画期的な内容でした。

田島 準備が始まり、まず最初の2ヵ月半くらいは「そもそも記念誌って何なのだろうか？」とメンバーで真剣に考えました。

石井 30周年記念誌の存在意義そのものをじっくりと問うたと。

田島 ええ。で、その結論というかコンセプトの一つが、「これは我々の歴史だろうと。」緑水会の30年の歴史と、また、前橋ってどういう街なんだろうか、というものを紐解く研究資料であると。

石井 入会したばかりの会員が緑水会の活動や前橋の歴史を理解するテキストにもなりますね。

田島 そうです。そしてもう一つのコンセプトは、「緑水会をPRする広報誌である」せっかく作るのであれば記念誌の名を借りた広報誌にしたいな、と。

司会 たしかに我々の会はこれだけ一懸念活動しているのに、PR、広報活動という面では一歩及ばないところがありましたからね。

田島 あれだけのものができたというのも、十数名のメンバーが真剣に議論した、一懸念ものを考えてもらったおかげです。

石井 30周年は本当に苦労した行事でしたが、山岸実行委員長を筆頭に緑水会全員が本気で考え行動していただいたことが何よりの成果でした。

30周年というのはその流れを大きく変えるチャンスだった

司会 さて、石井代表のもと30周年が無事成功して、31年目の田島体制が始まるわけですが、緑水会の運営もいろいろと変わってくるのではないのでしょうか？

石井 毎年秋頃に次の代表幹事が内定し、代表予定者は予算やスケジュールをもとに次年度の計画を立てます。ここで例年苦労するのが、私のときもそうでしたが、既存の事業をどう見直し、整理するかという点です。

司会 たしかに緑水会はやることが多いですね。毎月様々な行事に追われているというか・・・。

石井 そこをうまく整理したいのですがなかなか難しい。やはり今までの伝統やあるいはしがらみといった部分がありますので。

司会 今までの在り方を100%大事にしてしまうと、過去のしがらみやこだわりから脱却できませんよね。

石井 毎年執行部も変わりながら、その時代ごとにそのとき良いと思った事業を始める、その事業のいくつかがたまたま引き継がれていく、その繰り返しが続いてきたと。30周年というのはその流れを大きく変えるチャンスだったわけですね。

田島 こういった周年事業は何のためにあるのか？これは緑水会に限らず企業の周年事業でも同じだと思いますが、やはり区切りを付けられる、30周年を機会に「変えてもいいんだよ」あるいは「変える」ということをよく考える」ということでしょうか。

石井 そういった我々の精神が、会員のアンケートをベースとして作られた30周年の理念宣言文に集約されています。この理念宣言文をもとに実際にどう行動するのか、変えていくのかが重要なわけですね。

田島 30年の間に積み重なった事業を変えていくのか守っていくのか、その切り分けのポイントはやはりコンセプトだ

と思います。

司会 つまり、その事業の本来の目的や意味を考えるとということでしょうか。

田島 そうです。一番大事なのは「何のために我々はこの事業をやっているのか？」を明確にすることです。今ある事業の形態をそのまま引き継ぐのではなく、コンセプトを検証しながら引き継ぐことが伝統を守ることだと思っています。事業のコンセプトを時代と照らし合わせて検証して行く中で、事業形態が変わるものも出てくるでしょうし、因習として残っているものは整理されるかもしれない。そこを捌くのが今年の我々の役目だと思っています。

石井 次の世代に何を伝えていくべきか、事業を継続していくにしても、そのコンセプトを徹底的に議論することでも、まったく新しい形式や内容の事業に変わることも有り得ますね。

田島 既存の事業が肥大化しているからといって、単に数減らしをするのではなく、それぞれがどんな活動でなんのためにやっているのか、こういうコンセプトの検証、見直し、伝承というものを各委員会ですべて懸念考えてもらう1年にしたいと思っています。

会社の仕事でもそうですが、忙しいから大変というのは違うんじゃないかなと。

つまらない仕事をしていけばやっぱり疲れるし嫌になつてしまふけど、面白い仕事ならばいくら忙しくても時間がかかっても大変だとは思いませんよね。

緑水会活動もやっぱり同じで、自分自身がその意味を十分理解して活動していけばきつと面白い作業になつていくはずですよ。

単に人を集める事業をやるだけが委員会活動ではない

司会 今年度は人事体制がかなり刷新されています。

まずこれまでの総務広報委員会が総務室と広報委員会に

分離して1室5委員会になり、そして各委員会の名称も4文字から2文字に変わりました。そのへんの意図をお聞かせください。

田島 今年度から始まる1室5委員会という体制の目的を一言で言ったら、各委員会を核にした「熱き語らいの場」を作るためです。30周年記念誌を作成したときに十数人のメンバーが一所懸命ものを考えた、そういったことを各委員会に望んでいるわけですね。

石井 たしかに1000人を超える緑水会全員でいっぺんにディスカッションしようといっても無理な話ですし、十数人の単位ならば真剣に議論し尽くすこともでき、結果として確実な行動が期待できます。

司会 「熱き語らいの場」というのは前の25周年の山荘計画のキーワードでしたよね。

田島 そうです。あの山荘計画を私なりに解釈すると、あれはなにも山荘という物理的なハードを作ることが目的だったのではなく、「熱き語らいの場」を作ろうということであつたと思っています。

石井 その通りです。山荘計画の元々の発想はそこから生まれていました。そこで各委員会を山荘に見立てて、先程も話した各事業のコンセプトを徹底的に話し合ってもらおうというわけですね。

田島 また、本来はそれぞれ専門委員会であるはずが、各委員会に均等に事業を割り振るスタイルが長年定着したために、どこかで専門性が失いつつあるような気がしています。

司会 会員、事業、経営、地域、総務といった委員会が、その名前と関係ない事業を引き受けているケースは確かに多いですね。

田島 そのために今回総務室という機関を新設しました。本来どこの委員会の主管にも属さないような緑水会全体の事業、たとえば観桜例会や定時総会、忘年会といったものをすべて総務室にひきうつしてもらおうと。

石井 もともと旧総務広報委員会の仕事というのはかなりのベテランでないと中々こなせない部分があったわけですが、今回の総務室はさらに一歩進んで、少人数ですが全員委員長経験者のエキスパートスタッフで構成されています。

田島 さらに私が総務室に期待しているのは、代表幹事の選任方法、定年制、OB先輩方との連携といった長い目で見た課題ですね。べつにこの1年で答えを出す必要はありませんが、おそらく今年の総務室はそういった議論ができるメンバーのはずです。

司会 なるほど。では会全体の事業を総務室に引き受けてもらう代わりに、我々5委員会はそれぞれの専門分野の事業をしっかりとこなしていくということですね。

石井 新たに打ち出された委員会規定も、これまでは箇条書きで「これをやりなさいよ」とある程度具体的に書かれていましたよね。だから悩まなくてもそれに従って過去の事業をなぞっていけば済んでいた部分もあったわけですが、今年からはその点がかなり自由な解釈ができ、それでいながらより専門性を追求しなければならない規定に変わりました。

田島 委員会の名前を4文字から2文字に変えたのも、そういった委員会規定の解釈の自由性をより高めてみたかったという理由ですね。

一つだけ会員の皆さんにお願いしたいことは、単に人を集める事業をやるだけが委員会活動ではない、という認識をぜひ持っていただきたい。1年間本場に一つのテーマを一所懸命議論して、こういう企画書ができた、もしくは、こういった研究結果が出ました、というものが年度末になって一冊のレポートとして上がってくれば、私はそれで十分な委員会活動だと思っています。メンバーやあるいは市民を何人集めてどれだけ大きなイベントをやった、というのは本当の意味での委員会活動ではないということです。

それぞれ専門委員会なのでから専門分野の研究活動を行う、私はこれは青年経済人にとって非常に大事なことだと思っていますが、その結果をイベントという形だけではなく、一つのレポートでもいいのですが、とにかく何か結果を見せられる形にする、成果発表というところをしっかりとやっていただきたい、そのようにぜひお願いいたします。

中長期的な見通しでの人材育成を

今から始めなくてはならない

司会 総務室を除いて今年委員長に選ばれたのは、私も含めてすべて委員長経験のない人間ですが、これだけ新しい試みが行われる年度の委員長が新人というのは、私が言うのも変ですがかなり危険な綱渡りではないでしょうか？

田島 綱渡りと言われれば確かにそうかも知れませんが（笑）。あえて全員新任委員長にした理由は、機構改革のときのリフレッシュ感をさらに高めたいというのが一つ。もう一つ重要なことはこの先起こるであろう問題に備えてということです。

私が昭和39年生まれなのですが、今の緑水会にはこの39年度生と次の40年度生が非常に多く、全役員約40人の中でこの二世代の役員が半数の約20人います。つまり我々が定年になる2年後から、役員の半分がいつきに入れ替わるという現象が起こるんですね。

司会 それって結構大変なことですよ。

田島 さらに今から3年後になると、県連（群馬県商工会議所青年部連合会）の会長ポストが持ち回りで前橋に回ってくる予定ですが、その時に半分入替ったばかりの役員でどうしたらいいのか、と非常に危惧しているのです。

石井 おそらく自分たちのことだけで手一杯で、とても県連の運営まで見られないでしょう。とはいえ緑水会は定年制である以上我々がいなくなるのは確実なわけです。

田島 ですからこれから3年後くらいの中長期的な見通しでの人材育成を今から始めなくてはならない。そういう意味で3、4年後に会の中核を担っていく年代でまだ委員長未経験の人をあえて選任したわけです。

石井 緑水会は基本的に毎年人事交代する単年度制だから、どうしても会の運営が分断され易くなってしまう。その点を田島新代表が着目し分析して、3年先5年先といった中長期的な運営、今回の委員長人事もそうですが、将来を見据えた戦略を明確に打ち出してきているなあと感じますね。

田島 今年いろいろと戦略を仕掛けても、1年くらいではその結果は出てこないとおもいます。しかし、今そういった種蒔きをすれば何年か先に必ず何らかの花が咲くはずですよ。

先輩方が築いてきた30年の緑水会の歴史によって、その土壌はできているわけです。

また石井前代表が30周年できちんと区切りを付けられたからこそ、31年目の今年からさまざまな変革を始められるということでしょう。

司会 30周年事業から一つの節目を迎え、更に中長期的スパンで緑水を展望されている両代表の想いが伝わって参りました。私も広報委員長という大役を仰せつかりましたが、本日のお話の本質をしっかりと胸に刻み、真の委員会活動に望みたいと存じます。

本日は、両代表幹事、誠にありがとうございました。

両代表幹事とも、これまで緑水会活動を重ねる中で様々な問題に対峙し、思索し、議論を重ねてきたことが伺えます。まさに今、「熱き語らいの場」を具現化するために、改めて私たち一人一人の「想い」が大切なのではないのでしょうか。



3	2	1	12	11	10	9	8	7	6	5	4
24日 第62回定時総会	17日 第16回上州空っ風風揚げ大会 in 前橋 開催 12日 新入会員研修会 8日 会長研修会議 長崎大会（8日～9日）	27日 卒業生送別記念事業及び先進都市視察 横浜・東京（27日～28日） 7日 新春例会	15日 青年部クリスマスパーティー 4日 合同親睦例会	16日 商青連第27回全国大会 千葉大会及び先進都市視察（16日～17日） 14日 経営知識を学ぶ例会テーマ「経営者のための精神・人間性の構築について」 講師：国際空手道連盟 極真会館 館長 松島良一氏	13日 前橋まつり（13日～14日） 6日 第27回商工会議所青年部関東ブロック大会平塚大会（6日～7日）	7日 海外視察研修会 中国 上海（7日～9日）	24日 Y E G 東京サミット（24日～25日） 16日 親睦事業 ザスパ草津応援企画（県営陸上競技場） 11日 前橋花火大会	25日 行政との懇談会 テーマ「未来の前橋について」 講師：前橋市長 高木政夫氏 8日 前橋の中心市街地を歩いてみよう（七夕まつりクリーン運動）	25日 第61回定時総会 8日 創立30周年記念式典・記念講演会 講師：(株)まちづくり長野 参与 服部年明氏	26日 全国Y E G サッカー大会 埼玉大会（26日～27日） 20日 ファミリー親睦例会（ます釣り大会）	22日 第16回ローズクイーンコンテスト最終審査 8日 第16回ローズクイーンコンテスト1次審査 5日 観桜例会
緑水会の主な行事											
前橋市の主な行事											
第25回全国都市緑化ぐんまフェア	手づくりアイデアマイバッグ展 第18回関東高等学校バスケットボール新人大会	第52回全国日本実業団駅伝ユニイヤー駅伝開催 前橋・高崎連携文化財展関連イベント「勾玉づくり」 前橋初市企画「新春にぎわい茶席」 前橋初市まつり 第31回皮膚脈管膠原病研究会開催	前橋プラザ元気21(旧L I V I N 前橋店)オープン J R 前橋駅に「観光案内所・物産館」リニューアルオープン	第35回全日本美容技術選手権大会開催 ことも起業塾(2日目)を開催 全国シニアスーパーバシニアバスケットボール大会開催	ことも起業塾(1日目)を開催 出張！なんでも鑑定団 in 前橋開催 朔太郎音楽祭(第2回全国マンドリン四重奏コンクール)	第15回萩原朔太郎賞が伊藤比呂美氏に決定 第9回日本褥瘡学会学術集会を開催	全国競輪主催地議会議長会役員会 第57回全日本実業団卓球選手権大会開催 第24回全日本小学生ソフトテニス選手権大会開催 第34回日本神経内分泌学会を開催	第38回日本看護学会ー母性看護ー ぐんま地域文化創造フォーラム	消費者講座「楽しく食育・幸福は口福から」 第13回国際癌治療増感研究会を開催	第8回前橋シテイマソン 第9回前橋市長杯全国社会人選抜バレーボール女子リーグ 第58回全国消防長会関東支部総会を開催	

Topics

- ・第90代内閣総理大臣…安倍晋三、第91代内閣総理大臣…福田康夫
- ・宮崎県「東国原知事」フィーバー、あるある大辞典、食品偽装事件相次ぐ、中国産毒入りギョーザ事件
- ・能登半島地震、新潟県中越沖地震、サブプライムローン焦げつき問題で、株価大暴落、横綱朝青龍を2場所出場停止
- ・長崎市長狙撃事件、松岡農水相が議員宿舎で自殺、ZARDの坂井泉水さん転落死、原油高で暮らしに影響、中日53年ぶり日本一
- ・憲法改正手続きを定めた国民投票法が成立、赤ちゃんポスト運用開始、多治見と熊谷で40.9度新記録
- ・遊園地コースター死亡事故、力士急死で時津風親方を解雇、東京渋谷でスバ爆発、社保庁年金記録漏れ5,000万件発覚
- ・ピリー隊長ブートキャンプ人気、コムスン報酬不正請求、参院選自民惨敗、安倍晋三首相が突然退陣。後任に福田氏

- ・民営郵政、24万巨大企業が始動、防衛装備疑惑で守屋前防衛次官を収賄で逮捕、薬害C型肝炎訴訟で初の和解勧告
- ・テロ特措法が失効で海自撤収、佐世保で散弾銃乱射、サッカー岡田ジャパン誕生
- ・TV…行列のできる法律相談所、華麗なる一族、花より男子2、ハケンの品格、どんと晴れ
- ・言葉…どげんかせんといかん、でも、そんなの関係ねえ、オッパッピー、おしりかじり虫、ハニカミ王子、
- ・Wii、脳内メーカー、消えた年金
- ・日経平均株価…15,307.78(終値)
- ・平均円相場…117.60円

平成19年度委員長事業報告

works report

総務広報委員会

町田憲昭 委員長



YEG 全国大会千葉大会

創立30周年となる節目の年、昨年に引き続き私としては4回目となる総務広報委員長をおおせつかり、これからの30年に向けての大きな転換の年となることを踏まえて、総務広報委員会も本来の総務と広報という両面それぞれがより良く機能するよう心がけました。

総務は会全体を円滑に進めるためにやるべきことは何か、役員会を中心とすると、規約の大幅な改定や30周年を踏まえたロゴ等を作成など、これらの成果により本会全体に貢献すると同時に、この成果が今後の発展のためのしつかりとした基盤整備に少しでもお役に立てれば幸いと考えております。

広報に関しては昨年から懸案でありましたホームページのリニューアルを行いました。また、「水と緑の小委員会」を中心として活動し、今後の広報のあり方に対するメッセージをこの「水と緑」第49号に集約するとともに、新設される広報委員会への橋渡しに考えたと考えております。「水と緑の小委員会」の委員長でもありました、初代の林広報委員長のご活躍を期待いたします。最後になりましたが、事務局および委員会のメンバーとすべての会員の皆様のご協力に心から感謝申し上げます。



ローズクォーンコンテスト

事業推進委員会

丸田大介 委員長



クリスマスパーティー

会員交流委員会

北爪英樹 委員長



経営研究委員会

長坂雅紀 委員長

早いもので、桜の満開の 4 月経営研究委員長を仰せつかつつてから 1 年が過ぎようとしています。この 1 年は会員の皆様・事務局の皆様には多大なご協力を頂き誠に感謝いたします。さて 1 年間で振り返ると当委員会は、行政との懇談会開催から始まり、経営知識を学ぶ例会・先進都市視察・卒業生記念事業と様々なミッションを主管いたしました。その際に委員会では、会員の皆様が仕事に役立つ・自分自身を磨ける そんな主管行事を目指し開催させていただきました。行事開催までには、メンバーより色々な考え・アイデアとして構想をいただき魅力ある主管行事が開催できたかと思っています。

経営研究委員会はある面で本来の青年経済人として一番学ぶ事業を主管する委員会かと思っています。本年は、例年に比べ新しい試みを多々開催させていただきました。

桜のつばみがふくらむ時期に 19 年度委員会活動も終了致しますが、学ぶという言葉、そして初心に帰る この言葉は委員会の全てであり、次世代に受け継がれる言葉かと思っています。最後に、今年度は会員の皆様にとって、少しでも心に残る行事が開催できたのであれば当委員会メンバーは最高の名誉であり・自分自身の向上にも繋がる事かと思っています。 感謝



卒業旅行

地域開発委員会

高野和之 委員長



ふれあいエスナビル

本年度の地域開発委員会の事業も無事終了を迎えています。これも会員の皆様のご協力のお陰であると感謝申し上げます。

本年度の地域開発委員会は前橋が「活力ある前橋」になるよう国際交流や各種団体との意見交換・調査研究を行い、元気ある街づくりに積極的に参加協力することを目標とし、また環境に配慮した街づくりを目指し、環境奉仕活動などを行うことで前橋市・市民・緑水会とが一体感を持つ事ができる事業を開催する事を計画し実施致しました。

7月の前橋七夕まつりにて会員またそのご家族の前橋中心市街地への認識を深めるとともに、清掃活動を行うことで子供たちの社会参加を目的に『クリーン作戦』と称して計画実施しました。2月は緑化フェア開催年にあたる本年に中心市街地を中心とした街づくりにむけての意識高揚と、環境奉仕活動の取り組みの一環として、中心市街地の一面を借用して市民が憩えるガーデンングを施したイベント広場を作製しました。市民の方々と一緒に花壇に季節の花を植栽し、中心市街地の必要性を改めて実感いたしました。弁天通り商店街組合様・弁天通り青年会様等の中心市街地にてご商売をされている方々と共に事業を行うことができたことが何よりも嬉しく、また新しい街づくりにへの参加の可能性を感じることができました。

この 1 年間多くの方々とお話をさせていただき、共に活動して当会でしか得られないような経験をたくさんさせていただきました。皆様のご支援、ご協力本当にありがとうございました。



前列左から前田 修、石井繁紀、田島宏明、伴 卓、町田憲昭
後列左から堀 三男、海老沼孝之、丸田大介、阿久津和彦、一守和子、林 豊、森本克哉、佐藤 敬

平成20年度前橋商工会議所青年部 緑水会

New Maebashi Young Entrepreneurs Group Structure

副代表幹事 伴 卓
代表幹事三代に渡り副代表幹事を務めることになりましたが、今年は少々変化の兆しが・・・皆さん、たのしみましょう！

副代表幹事 前田 修
平成20年度の緑水会は30年の長い歴史を経て大きな変革の時代に入りました。本年度は新たな第一歩を踏み出し更なる飛躍へと邁進していきたいと思っています。

副代表幹事 町田憲昭
新副代表として歴史を受継ぎ、熱意、誠意、創意をモットーに謙虚さを忘れずに、更なる発展を目指します。

監事 阿久津和彦
本年度の監事を承りました。緑水会の発展のために皆さんの活動をしつかりサポートいたします。

監事 一守和子
今回あらたに監事にご指名いただきました。いよいよ卒業の年になりましたが、最後の1年精一杯頑張ります。

総務室室長 丸田大介
20年度より新設される総務室の大きな目標は「青年部の中・長期的課題（全国会長研修会議誘致問題、定年延長等）を全会員で議論する場」を持つことです。非常に大きな問題ですが、全会員と緑水会の将来について、熱く語りたいと思います。

広報委員会委員長 林 豊
新生緑水会に相応しい新設広報委員会という重責を仰せつかりました。時代の変革に伴う礎の一端を担えば幸いです。1年間宜しくお願い致します。

会員委員会委員長 海老沼孝之
今年度会員委員会は、その役割をきちんと果たせるように頑張ります。皆様のご協力をお願い致します。

経営委員会委員長 森本克哉
今年度、経営委員会委員長を務めさせていただきます。1年間、一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。

地域委員会委員長 堀 三男
今年度、地域委員会委員長を務めさせていただきます。前橋市と緑水会のため、1年間、宜しくお願い致します。

事業委員会委員長 佐藤 敬
委員の皆さんの力をお借りしながら、考え、行動し、精一杯頑張りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

新入会員紹介

平成19年度入会された会員を紹介します。



神澤敏夫
カンザワ トシオ
ソニー生命保険(株)
営業課長



吉井 梢
ヨシイ コズエ
朝日印刷工業(株)



大澤栄一郎
オオサワ エイチロウ
大澤栄一郎司法書士事務所
代表



野村雅弘
ノムラ マサヒロ
(株)北関スクリーン
取締役営業部長



曾根利光
ソネ トシミツ
(有)リコウエンジニアリング
代表取締役



若井良昭
ワカイ ヨシアキ
若井糧穀(株)



渡邊辰吾
ワタナベ シンゴ
双和電業(株)
営業部次長



小池常雄
コイケ ツネオ
前橋サンホテル
取締役専務



田仲恒夫
タナカ ツネオ
ラーアーキテクト(株)
代表取締役



田子宏美
タゴ ヒロミ
田子会計事務所



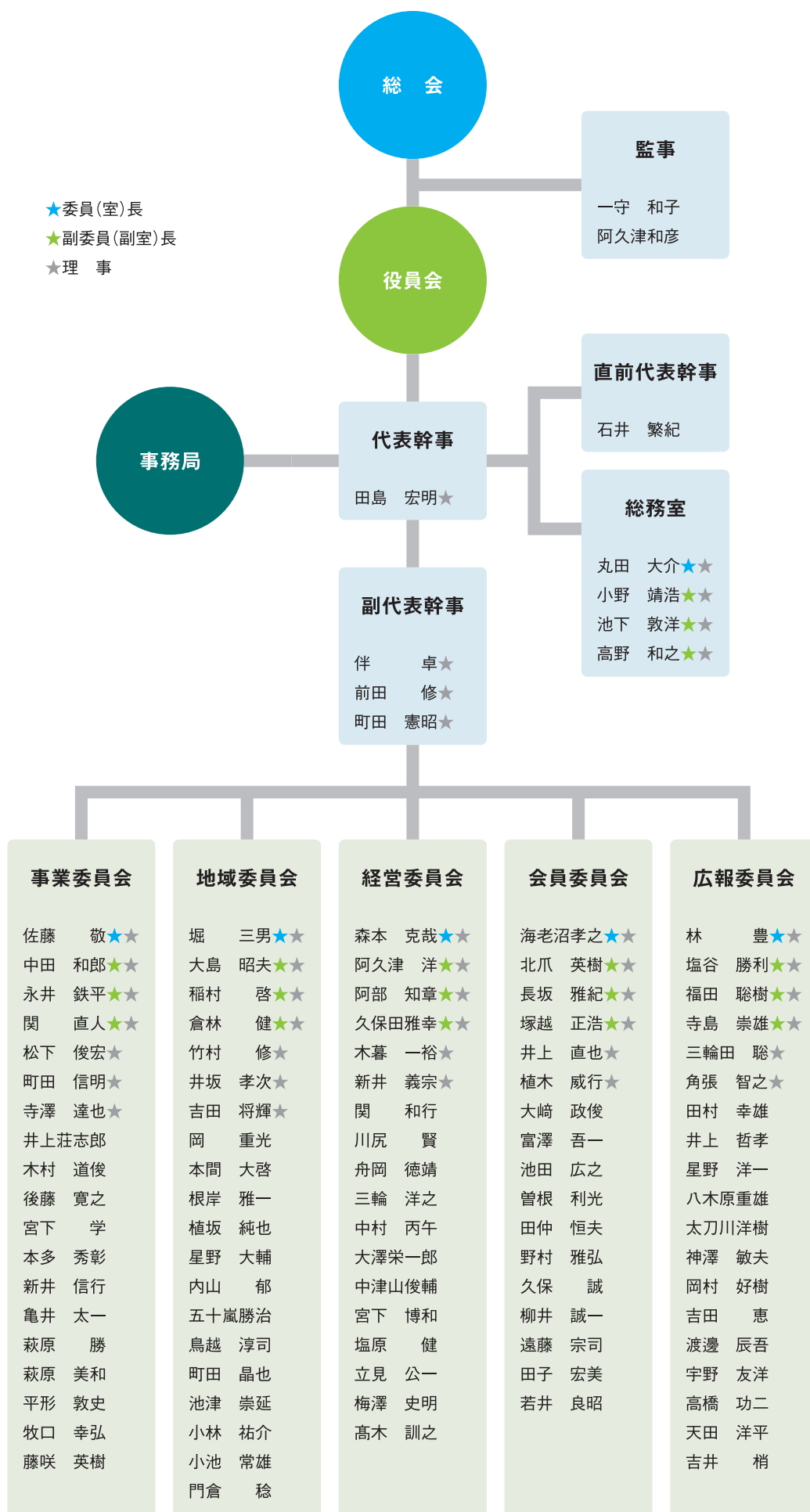
遠藤宗司
エンドウ ソウジ
(株)サンワ
エネルギー第二事業部副部長



久保 誠
クボ マコト
(株)久保塗装
専務取締役

平成20年度前橋商工会議所青年部組織図

organization diagram



30周年記念式典

Maebashi Young Entrepreneurs Group 30th Anniversary Party

前橋商工会議所青年部は、2007年6月4日に創立30周年を迎え、その記念大会を6月8日金曜日に群馬県民会館小ホール(記念講演・記念式典)及び商工会議所会館サクラ(記念祝賀会)にて多くのご来賓と特別会員の諸先輩方をお招きしそれぞれ盛大に開催しました。

記念大会は、記念講演会・記念式典・祝賀会の3部構成で、記念講演会では(株)まちづくり長野の服部年明氏を講師に迎え「中心市街地活性化の目的と意義」をテーマに、長野市の中心市街地でもある門前町の再生事例をもとに、前橋市の現況と今後の取り組み事業について予定時間をオーバーするほどの熱い講演が行われました。また、記念式典は、30年の歴史に相応しい厳粛な式典を、記念祝賀会では場所を移動したにもかかわらず多くの皆様のご参加をいただき行う事ができました。

また、当日は“tontonのまちまえばし”のPRを目的に緑水会特製の『とん汁うどん』を全ての参加者にお土産としてお持ち帰りいただき、会場の外においてもチャリティー目的での限定販売を実施し、用意した全てを販売できるほどの盛況振りでした。

さらには、30周年記念事業の一環として「第3回ふれあいフェスティバルin前橋」ーみんなで花壇を作ろう！ーをサブタイトルとして中心市街地の賑わいある街づくりに向けての意識高揚と、地球環境保全への取り組みの大切さを問いかけ、さらには、子供たちの社会参加を促すと共に多世代が楽しめる街のあり方や中心市街地の再認識を目的としたイベントを平成20年2月3日に実施いたしました。当日は、前橋でも3年ぶりの積雪であいにくの天気ではありましたが、弁天通商店街振興組合の皆様のご協力により素敵な花壇を作ることができました。

最後に、本青年部が30年を迎え記念大会が盛大に開催できましたのも、関係各位のご支援ご協力の賜物です。

心より感謝申し上げる次第であります。この大会が、本青年部のさらなるステップアップの好機となるよう会員一同決意を新たにいたしました。



平成19年度、緑水会は 30周年を迎えました。

30th
'77-'07
Maebashi Young Entrepreneurs Group
30th Anniversary

上州麦豚うどん プロジェクト

Joshu Mugibuta-Udon Project

緑水メンバーの「熱き語らいの場」から、この即席カップ麺は誕生しました。当初は創立30周年記念大会での記念品だった「とん汁うどん」も、今は前橋の新たな名物「幸福(しあわせ)を呼ぶ上州麦豚うどん」として歩き始めています。製作には特別プロジェクトを立ち上げ大勢のメンバーで何回もの会議を積み重ねてきました。まず具材として群馬の銘柄豚であります「上州麦豚」を使いたい!でも麦豚のフリーズドライは無い!じゃあ作ろう!等々様々なアイデアが飛び出しました。ラベル面は遊び心を盛り込んで、カップ麺を入れるパッケージは老若男女に親しんでもらえる様な形を作り上げ、前橋のお土産として残していけるモノ作りをトータルで意識しながら開発を進めて来ました。

今回、2個入り1パックとして5000セットを限定で都市緑化ぐんまフェアの期間中、お土産品として販売をしていく予定です。是非、この上州麦豚うどんの名が広く知られ前橋の名物となるよう、皆さんにも一度お試し頂きご協力をお願いいたします。





飯塚正人
19年度監事

昭和61年に入会して早21年。とうとう追出される時期が来てしまいました。近年は「唯一の昭和入会」が私の看板であり、現役の中で誰よりも長く緑水会を見つめて来たと言うのが私のモチベーションでもありました。社会を知らない雛の時期に緑水会に入り、諸先輩方に出会い、仲間に出会い、さまざまな体験を通して今の好盛年の私にたどり着きました。緑水会は私にとって人生の師のひとつであったと確信しています。最終年度、監事という役割を無事果たせたのも、関係諸兄のおかげです。この場を借りて御礼申し上げます。「今年が最後だから」という免罪符が家族に通用するのも残りわずかとなってしまいました。はなはだ残念で寂しいことですが、これからは少し離れたところで、緑水会の更なる盛り上りを見守っています。お世話になりました。そして、ありがとう。



飯島正成

平成8年に入会してから12年、ついに卒業の年になりました。出席できる機会は残念ながら多くはありませんでしたが、それでも緑水会のさまざまな行事に参加できたことは、どれもみな楽しい思い出になっております。前橋のような地方都市の経済状況がまだまだ厳しいなかで、緑水会の存在は今後さらに必要となるでしょう。OBの一人としてこれからも緑水会の皆さんの活躍に期待しています。長い間本当にありがとうございました。

V

O

I

C

E

S

卒業
会
員
よ
り
ひ
と
こ
と



田島雅彦

早いものでとうとう卒業年度となりました。もともとスワン在職時、緑水会の催事の担当でしたので、平成9年に入会する前から皆さんとは親しくさせていただきました。4年前に転職し、実家の「上州たじま」と、三井住友海上火災保険の代理店をしております。11年間のうち、ほとんどを事業推進委員会で活動してきました。仲間と一緒に、風揚げ大会やローズクィーンの裏方を一つ一つ手作りで運営できたことが、なにより楽しい思い出になりました。本当にありがとうございました



小野昌人
19年度監事

“長いけど、あっという間。すごく楽しいけど、ちょっとだけ苦しく辛い。”
うまく表現することが出来ませんが、かけがえのない約20年を過ごさせて戴きました。入会当初、緑水活動に参加するたび、すばらしい先輩方を前にして、またその雰囲気から背筋が伸びる緊張感を感じたことは、45歳になった今でも鮮明に覚えています。また、毅然と対応している後輩達を見て、自ら襟を正したことも多々ありました。在籍中、多種多様な勉強をさせて戴きました。思うに、「学ぶ」ということは、ほかでもない「自分を知る」ことなのではないかと思えます。また、「役は人をつくる」と、諸先輩方が言われていましたが、卒業にあたり自分自身を見つめ直してみると、変われば変わるものだなあ、と思いました。在籍させて戴いたこの月日は、自分の人生の中でとても貴重で、充実した期間であったと確信しております。また、このような機会に恵まれたのも、家族と会員の皆さん、会議所事務局のおかげです。改めて感謝申し上げます。ここで学んだことを生かして、これからも精進します。ありがとうございました。



鶴見正宣

僕が入会したのはちょうど昭和から平成になってすぐの事でした。って手帳に書いてあるのでそうなのでしょう。まだ27歳だったんだよね。周囲がやたら大人に見えて仕方なかった記憶があります。緑水会もあまり若くして入ると、先輩たちとのギャップもあり僕みたいにシャイな奴は気疲れする時もあるんじゃないかなって思います。そんなわけでポツポツって感じて出たので、いまだに行事の細かいところがわからず、人のやる事見て僕も動くという、たまに恥ずかしさに痛たまれなくなってしまいます。最後の2,3年頑張っ出席するようになって、皆よくできた後輩達だなあって今更ながら実感しています。皆様無事卒業させてくれるみたいで本当にありがとうございます。



田中健一

入会させていただいてから、殆ど行事参加もせずに卒業を迎え大変申し訳なく思っております。平成6年に入会してから数年間、鱒釣り大会・チャリティゴルフ・チャレンジオブトネ・花火大会・前橋祭等の行事など僅かですが、参加させていただきました。皆様の温かい心に触れ楽しく活動が出来ましたこと、また皆様のパワーに圧倒されながらも自分なりに奮起しようとしたことなど懐かしく思い起こします。しかし、なかなか積極的に参加することができず、いつの間にか緑水会行事から遠ざかり今日に至りましたこと誠に反省しております。今回、皆様の温情で緑水会の会員として最後まで末席に加えていただき、そして、卒業させていただきましてこと心より感謝申し上げます。最後に緑水会の益々のご発展と皆様の一層のご活躍を心からお祈り申し上げます



養田博美

入会して二年余りと本当に短い間でしたが、多くの仲間と知り合い、有意義で充実した緑水会活動を過ごすことができました。

卒業生旅行でも皆様から心温まるお気遣いをいただき、最高の思い出を作ることができました。

また昨年の緑水会忘年会では、如心の里ひびき野をご指名いただき誠にありがとうございました。今後ともご機会があればぜひご利用下さいませ。緑水会の皆様には特におもてなしをさせていただきます。

こんなに早く卒業してしまうことが残念でなりませんが、本当にありがとうございました。



山岸直樹

19年度特別理事

私も商工会議所青年部・緑水会を卒業する年となりました。入会以来19年もの長い時間を過ごさせていただき、色々な活動を通じて得た多くの人との出会いや経験は、まさに宝であり心より感謝申し上げます。本年度は、創立30周年を迎え実行委員長という大役を、地に足のついた運営とはいきませんでしたが務めさせていただきました。会員に理念・宣言文の理解と浸透を図りモチベーションが上がることを一番に考え実施したつもりでしたが、その難しさに改めて気づかされました。そんななかで、式典当日のお土産を何にするか考えたなかより生まれた、「とん汁うどん」のプロジェクトは、青年部に今まで無かった、地域おこしにつながる新しいビジネスモデルとなるよう動き出しているので、大いに期待しております。参加する楽しさや大変さを体感させていただき沢山の経験が出来ました。その時間を支えていただきました関係各位に、重ねて感謝申し上げます。これからも所属するポジションは、違うものの変わらぬご交誼をお願い申し上げ卒業にあたっての言葉とします。

ROSE QUEEN「1年を振り返って」



左から、鴨田、小見、関根

関根芙実さん

平成19年4月22日、前橋商工会議所で行なわれた最終審査で、私はローズクイーンの一人に選ばれました。あれから1年。これほど充実した1年はなかったと断言できるほど、ローズクイーンの糧は多くの出会いと、経験と、感動を私にもたらしてくれました。汗だくになって盛り上げた七夕祭り。迫力に圧倒された花火大会。半ばで神輿を担いだ前橋祭り。今年群馬が開催地となる『全国都市緑化フェア』のPR活動。前橋警察署の1日警察署長も務めさせて頂き、幼い頃の夢だった婦警さんになることもできました。商工会議所の皆さんの優しい笑顔に励まされ、市民の方々の応援に勇気づけられ、ローズ丸となって駆け抜けた時間は私の宝物です。かけがえない宝物を、本当にたくさんの方から頂きました。この街が、もっと好きになりました。これからも素敵な前橋人を目指し、前橋をしっかりと盛り上げていきたいと思えます！

小見真弓美さん

昨年の今頃、私の人生で劇的な出来事が起こりました。審査員の先生方前で、何が始まるだろうかの不安と華やかなステージでの緊張は昨日の事に覚えています。この任務を授かり、自分への挑戦と前橋を知る楽しさで、毎日が新鮮です。行事の成功の裏では、大勢の方の努力と熱意、最高のチームワークで成り立っている事が、衝撃的でした。前橋を愛する人々が沢山いる。その一員に加われた事を感謝しています。色々な出会い、街の方とのふれあいは、明るくエネルギーで、逆にパワーを頂きました。そして縁あって、鴨田さん、関根さんという素敵な仲間に出会えました。素晴らしい思い出と1年間お世話になり、本当にありがとうございました。緑化フェアの成功を心よりお祈り致します。暮らすなら、絶対前橋ですね!!!

鴨田由紀子さん

「ローズ万歳!!」1番の感想です。皆さんの温かい支えのお陰で、1年の間に前橋をキーワードとした様々なことを再発見することができました。その中で特に胸に響いたのは、緑水会の皆様を持つ、前橋への熱い想いでした。主催者として行事を運営するそのエネルギーは決して目に見えないものではないと思いますが、訪れる人達が安全に楽しく参加できるという「カタチ」として現れるのだと強く思いました。角度や関わり方を変えると、今まで気付かなかった「カタチ」も見えてくるのではないでしょうか。そしてそれは、私自身のアンテナとなって「気付き」の力になるのだとも思いました。「子どもにとって思い出が多いほど、その子の人生が豊になる。」「風揚げ大会での誓い会頭の言葉に感動すると同時に、大人にも同じことが言えると思いました。ローズとしての経験は、私の人間としての幅を確実に広げてくれ、思い出はかけがえない宝物となりました。卒業生として今後何ができるのかを考える楽しさが増えました。お伝えしたいことがありすぎて上手にまとまりません。だから私の想い全てを、この言葉に込めます。「ローズ万歳!! 緑水会万歳!! 前橋万歳!!!」

編集後記

From Editor

平成19年9月11日、第1回「水と緑」製作小委員会がスタートした。正直漠然とし、どのような発刊を迎えられるか不安の一言であった。しかし委員会を進めるにつれ、企画の面白さが芽生え始め、回数を重ねる度に完成体のイメージが生まれてきたのがメンバーの感想ではないだろうか。緑水会創立30年を経て、歴史は継承しつつも新たな緑水会として、今回の「水と緑」は意義のある発刊であったと思う。最後にメンバー各位、本当に有難うございました。

平成20年3月31日

「水と緑」製作小委員会委員長 林 豊

編集メンバー

福田聡樹 三輪田聡
塩谷勝利 角張智之
八木原重雄 寺島崇雄
牧口幸弘 宇野友洋

オブザーバー

町田憲昭総務広報委員長
飯塚正人監事

